



**Nobel
Prize
Dialogue**

Science & Society



Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018

The Future of Food 持続可能な食の未来へ

主催：



Nobelmedia



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会



目次

開催概要	p. 2
主催者開会挨拶	p. 3
プログラム	p. 5
ダイアログの一日	p. 7
パネリスト	p.10
参加者データ	p.13
アンケート結果	p.14
主催者	p.15
運営委員会	p.16
パートナー企業等	p.17
主催者広報活動実績	p.18
制作物	p.20
ノーベル・ウィーク・ダイアログと日本開催の経緯	p.21

当日の様子は以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/nobeldialogue>



開催概要

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 は、若手研究者や産業界を含む広く一般を対象に、国内外のノーベル賞受賞者 5 名を含む 30 名の著名な研究者・有識者に登壇いただき、公開での講演やパネルディスカッション等を通じた科学と社会との対話を実施したものです。学術・科学技術への社会の関心・理解度を高め、科学技術・学術の振興に寄与することを目的としています。当日は、1,100 名を超す参加者にご来場いただくとともに、インターネットによるライブ中継を行い、世界中の視聴者に議論の様子が配信されました。(https://www.youtube.com/nobeldialogue)

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル財団の広報を担うノーベル・メディア AB がスウェーデンにおいて 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウム、“Nobel Week Dialogue”（ノーベル・ウィーク・ダイアログ）を日本で開催するものです。2015 年 3 月に、スウェーデン国外では初めてノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015 として日本において実施されました。今回は、2017 年に引き続き、3 回目の開催となります。

本ダイアログは、日本学術振興会とノーベル・メディアとの密接な協力関係の下、開催されたもので、学術分野における日本の国際的なプレゼンスを高める上で重要な機会となりました。また、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名な研究者・有識者が一同に会し、社会一般と対話する貴重な機会となり、学術に対する社会の関心・理解度を高めるという目的を達成した画期的な科学コミュニケーション活動となりました。また、今回は日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年記念事業の一環として実施され、両国の科学面での結びつきを更に強める一助となりました。

本報告書は、本ダイアログの概要についてとりまとめたものです。社会一般の皆様は科学技術・学術に対する関心を高めていただくとともに関係者各位に広くお役立ていただければ幸いです。

1. 会議の名称

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018

2. 主催

独立行政法人日本学術振興会／ノーベル・メディア AB

3. 開催日時

2018 年 3 月 11 日（日）10:00～16:50

4. 開催場所

パシフィコ横浜 会議センター（神奈川県西区みなとみらい 1-1-1）

5. テーマ

和文名：The Future of Food 持続可能な食の未来へ

英文名：The Future of Food

主催者開会挨拶



安西 祐一郎

独立行政法人日本学術振興会 理事長

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018」へご来場の皆様に歓迎、感謝の意を表するとともに、国内外からお集まりいただいた多くの方々にお目にかかることができ、大変喜ばしく存じます。また、アジア、アフリカ諸国から100名以上の博士課程学生の方々にもお越しいただいております。ご参加いただき、誠にありがとうございます。

今年は、日本・スウェーデン外交関係樹立150周年にあたる記念の年です。150周年推進委員会委員長として、本イベントが日本とスウェーデンの科学面での結びつきをさらに強める一助となれば幸いです。

さて、このノーベル・プライズ・ダイアログは、広く一般の方に、科学技術・学術への理解を深めてもらうことを目的としています。元々はノーベル賞授賞式の前日にスウェーデンで開催される「ノーベル・ウィーク・ダイアログ」に端を発するものです。スウェーデンのイベントは、ノーベル財団の関連会社であり、本日のイベントの共催機関でもあるノーベル・メディアによって主催されております。日本での開催は今年で3回目となります。

本日は、「食の未来」に焦点を当てます。

私たちの生活に欠かせない食について、私たちはどのような問題を抱えているのか。世界ではどのように全員に食べさせているのか。人口増による食料限界が差し迫る中、科学はどのようなことができるのか。長く健康に生きるために、私たちはどのように食べればいいのか。私たちは何を食べているのか、その歴史的文化的背景とは。2050年に私たちの食卓はどうなっているのか。

追究すべき非常に多くの問題があります。本日のダイアログでは、ぜひ皆さまと一緒にこれらの問題について考えていき

たいと思います。主催者としては、ノーベル賞受賞者の皆様が、これらの食と持続的発展に係る問題になんと答えるのか、また、私たちの社会に影響を及ぼすような最先端の研究についてうかがえることを待ち遠しく思います。

喜ばしいことに、5人のノーベル賞受賞者を含む30人の傑出した有識者たちが、世界中から本日のダイアログへ駆けつけてくださっています。

また、本日は、東北地方を中心に極めて多数の犠牲者を出すとともに、我が国に多大な影響を及ぼす未曾有の大災害であった2011年3月11日の東日本大震災から7年となります。犠牲者及び震災によって被害を受けた全ての皆様に哀悼の意を表します。本日午後のセッションでは、「災害を超えて」と題したセッションを予定しております。本日のテーマである食と関連して、世界の災害について考える機会となることを期待しています。

最後になりましたが、本日の示唆に富むイベントをはじめとして、日本学術振興会との長きにわたる協働と友好に対し、ヘイケンシュテン氏が代表を務めるノーベル財団、ローラ・シュプレヒマン氏及びノーベル・メディアの皆様にご支援にも感謝の意を表します。もちろん、特別スポンサー、スポンサーの各企業による援助にも心から感謝いたします。私自身、科学と社会の架け橋となる本日のダイアログを心待ちにしています。それでは皆さん、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018をお楽しみください。ありがとうございました。どうぞ召し上がれ。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018当日の開会挨拶を翻訳したものです。

※所属及び役職はシンポジウム当日のものであります。



Photo: Kari Kohvakka

ラーシュ・ ヘイクンシュテン ノーベル財団 専務理事

私が、ここ東京でノーベル・プライズ・ダイアログに皆様をお迎えする光栄に浴するのは、今回で3回目になります。2015年に初めてご挨拶したときは、このイベントをスウェーデンの国外で開催した最初の年でもありました。それ以来、我々は他の国々でも、本ダイアログをはじめとする同様のイベントを行うようになりました。

科学的伝統をもち、数多くのノーベル賞受賞者を輩出するとともに、ノーベル賞に大きな関心を寄せる日本は、最初の開催地として非常にふさわしい国でした。また日本は、我々が根本的に共有している価値観に根差しています。すなわち民主主義、人権の重要性、平和を築く努力及び事実に基づいた理性と科学を重んじることといった、世界をより良くするための価値観です。

我々は、日本学術振興会と共催してこのイベントを再び開くことを、とりわけ喜ばしく思います。何年にも及び我々の協働は、科学外交の良い例と言えるでしょう。今年、日本・スウェーデン外交関係樹立150周年を祝うにあたり、両国関係において、科学が最初からその役割を果たしていたことを、興味深く思います。カール・フォン・リンネの弟子カール・ペーテル・ツンベルクは、日本が鎖国をしていた時代にあっても、ここ日本で長期にわたって集中的に研究活動を行いました。

今日のプログラムについて申し上げる前に、まず背景を振り返ってみましょう。ノーベル賞とは何でしょうか。ノーベル賞は何のためにあり、我々はなぜここに集まっているのでしょうか。

アルフレッド・ノーベルはダイナマイトを発明した科学者です。様々な分野で350以上の特許を持っていました。彼はまた、世界中に企業間ネットワークを築いた起業家でもありました。彼自身は、人間の能力、科学、知識の価値に対して強い信念を抱く、文明開化の申し子でした。それと同時に文学や哲学など、幅広い関心を持ち、平和に向けた努力にも深く関わっていました。

ノーベルの名を冠するこの賞は、こうした精神、つまり知識とヒューマニズムに基づく価値観に拠って社会を築き、科学に投資を行い、これら全てを平和と協調の精神で実行するならば、世界はより良くなりうるという強い信念をもって、授与されます。これまで116年にわたり、900人以上が受賞しました。ご存知のように、このうち日本出身の受賞者は26名で、うち22名が科学分野での受賞でした。

過去数十年の間に、日本は「ノーベル界」の実力者になりました。科学分野の受賞者数は、20世紀では5名であったのに対し、今世紀は20年間で17名にのびました。これは偶然ではありません。意識的な実践があったからこそ、得られた結果なのです。機能的な教育システム、他国との調和を含む科学のための効果的な施策、科学を優先し、投資しようとする積極的な意志、更に多大なる努力があったことはい言うまでもありません。他の国々も日本から学ぶべきことは多いでしょう。

今日、ノーベル賞は唯一無二ともいえる地位にあります。ブリタニカ百科事典によると、世界で最も権威のある賞とされており、大きな信頼を得ています。これは、この賞を受けるにふさわしい世界各国の研

究者に対し、然るべき適性と誠実さをもって授与され続けてきたことによるものと信じております。同時にこの喜ばしい地位は、特に科学と知識、純粋な事実にさえも疑問が投げかけられている昨今において、我々に大きな責任を課しています。気候変動の問題はその一例ですが、致命的なことになりかねません。今、アルフレッド・ノーベルが示した価値観のために立ち上がる大きな必要があるのです。

言うまでもなく我々は、これまでノーベル賞が敬意を払われてきたような形でこの賞を授与し続ける責任を負っています。近年、我々は、賞について、また受賞者たちの苦労や失敗、成功談について伝える活動に力を入れて取り組んできました。我々のアウトリーチ活動は、「人類に最高の利益をもたらした」人々にノーベル賞を授与することというノーベルの遺言に沿ったものです。人々、特に若い世代に情報を提供し、関わることによって、賞の地位のみならずそのインパクトの一層の向上を目指しています。

このような精神で、我々は現在ソーシャルメディアにおいて幅広いアクティビティを提供しています。世界中に約4百万人のフォロワーがいますが、ほとんどが18歳から25歳までで、女性も男性とほぼ同じくらいです。あなた方にも参加いただけるよう、願っています。我々の博物館はストックホルムとオスロにありますが、世界中で展覧会も開催しています。またここ5、6年は、スウェーデン及び諸外国でノーベルの精神に基づいた会議を実施しています。

本日の会議は、食をテーマにしています。世界の食料供給及びあらゆる関連課題を、「食の未来」として取り上げます。

貧困が減少したとはいえ、飢餓は撲滅までにほど遠い状況です。90億人の人々に食料を供給するために、我々は何をする必要がありますでしょうか。資源の再分配が必要で、これは避けようがありません。しかし、それだけで十分でしょうか。これだけで全ての人に食料が行き渡るようになるのでしょうか。

問題はそこで終わるものではありません。全ての人に食料が行き渡ることにすら十分でないのかもしれませんが。その責務の大きさと求められる技術は、我々が人類として直面している他の制約と両立しないかもしれないのです。既に我々は、気候に関して地球が補える限界にまで来ていますし、あるいは限界以上と言う人もいます。

我々はいずれ食習慣を変えざるを得ないかもしれません。そのことが人間としての我々と社会にとって何を意味するのかを考えると、食料や食事は興味深いテーマです。その結論が悲観的なものになる必要はありません。結果的に我々が更に快適な習慣をもち、健康的な生活をするようになることも可能でしょう。

ご承知のように、我々が網羅しなければならない重要かつ興味深い問題は、山のようにあります。このダイアログでは、世界中から集まった専門家とノーベル賞受賞者たちの話に耳を傾けることができます。しかし、これが対話でもあることを忘れないでください。どうか発言をし、恥ずかしがらずに質問をして参加してください。それこそが、趣旨なのです。我々は、真の変化を達成する方法としての対話を強く信頼しています。

ノーベル賞受賞者の皆様、ご来場の皆様、今日が素晴らしい1日となることを確信しています。締めくくりにも申し上げるように、アルフレッド・ノーベルも、喜んで本日同席したことと思います。ご清聴ありがとうございました。重ねて、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018にお越しいただいた皆様を、心から歓迎いたします。

※本稿はノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018当日の開催挨拶を翻訳したものです。

プログラム

1. オープニング

(メインホール)

10:00 -	開会挨拶 独立行政法人 日本学術振興会、ノーベル財団、文部科学省
10:15 -	導入講演 アダム・スミス

2. 科学と食

(メインホール)

10:20 -	講演「オートファジー研究から食について考える」 大隅 良典
10:35 -	パネルディスカッション「地球は 100 億人を養えるのか～技術革新と持続的発展～」 フィン・E・キドランド、アキンウミ・A・アデシナ、マリオン・ギュー、岩永 勝、 モデレーター：アダム・スミス
11:00 -	対話「私たちの健康と食～長寿、腸内フローラ・バクテリア～」 ティム・ハント、スザンヌ・デヴコタ、アダム・スミス
11:20 -	海を耕す ～養殖マグロの味～ 家戸 敬太郎

3. 文化と食

(メインホール)

11:35 -	パネルディスカッション「食の今昔と未来」(文化人類学・伝統・文化から見た食) ヨハン・ダイゼンホーファー、クロード・フィッシュラー、スタンレー・ウリジャチェク、 モデレーター：長谷川 真理子
11:55 -	インタビュー「宇宙食と未来の食」 向井 千秋、インタビュアー：安西 祐一郎
12:15 -	インタビュー「伝統食と私たちの文化」 辻 芳樹、インタビュアー：アダム・スミス
12:30 -	昼休憩

4. 将来の食と持続的発展に向けた挑戦

13:45 -	分科会 1 (301) 1A: 食のイノベーション (「新しい作物」とは) ヨハン・ダイゼンホーファー、 ケント・J・ブラッドフォード、 伊丹 健一郎、 モデレーター：藤垣 裕子	分科会 2 (302) 2A: 健康 (増加する肥満) ティム・ハント、 マリオン・ネスル、 スタンレー・ウリジャチェック、 吉池 信男、 モデレーター：アダム・スミス	分科会 3 (メインホール) 3A: 持続的発展 (開発途上国と食) フィン・E・キドランド、 アキンウミ・A・アデシナ、 ハワース・E・ビュース、 マリオン・ギュー、 モデレーター：岩永 勝
14:30 -	休憩		
14:45 -	分科会 1 (301) 1B: 食のイノベーション (新しいアグリテックと アグリビジネス) フィン・E・キドランド、 加藤 百合子、 サイモン・ピアソン、 モデレーター：アダム・スミス	分科会 2 (302) 2B: 健康 (食を巡る政策・制度) アダ・ヨナット、 ハワース・E・ビュース、 クロード・フィッシュラー、 マリオン・ネスル、 モデレーター：藤垣 裕子	分科会 3 (メインホール) 3B: 持続的発展 (水資源の将来) ヨハン・ダイゼンホーファー、 マフムード・A・アブー・ゼイド、 マリオン・ギュー、 モデレーター：沖 大幹
15:35 -	コーヒーブレイク		

5. 未来に向けて

(メインホール)

16:05 -	パネルディスカッション「災害を超えて」 マフムード・A・アブー・ゼイド、ヴァージニア・マレー、焼家 直絵、 モデレーター：原山 優子
16:25 -	ノーベル賞受賞者による総括パネルディスカッション「未来の味」 ヨハン・ダイゼンホーファー、ティム・ハント、フィン・E・キドランド、大隅 良典、アダ・ヨナット、 モデレーター：アダム・スミス
16:45 -	閉会挨拶 ノーベル・メディア AB、独立行政法人 日本学術振興会



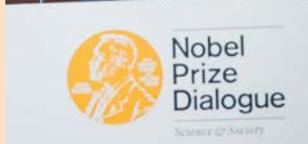
ダイアログの一日

10:20

2016年ノーベル生理学・医学賞受賞

大隅良典先生による講演

「オートファジー研究から食について考える」



10:35

パネルディスカッション

「地球は100億人を養えるのか

～技術革新と持続的発展～」

岩永勝先生による導入講演に続き、
パネルディスカッションが行われました。

11:00 対話 「私たちの健康と食～長寿、腸内フローラ・バクテリア～」



11:20

海を耕す～養殖マグロの味～

近畿大学が養殖したマグロをパネリストに
試食していただきました。



11:35 パネルディスカッション
「食の今昔と未来」
(文化人類学・伝統・文化から見た食)





11:55
インタビュー
「宇宙食と未来の食」

宇宙日本食の試食
がありました。

12:15
インタビュー
「伝統食と私たちの文化」



分科会 1 食のイノベーション

13:45 1A

「新しい作物」とは



14:45 1B

新しいアグリテックとアグリビジネス



分科会 2 健康

13:45 2A

増加する肥満



14:45 2B

食を巡る政策・制度



分科会 3 持続的発展

13:45 3A

開発途上国と食



14:45 3B

水資源の将来



16:05
パネルディスカッション
「災害を超えて」



16:25
ノーベル賞受賞者によるパネルディスカッション「未来の味」



レセプション

高円宮妃殿下、レセプションへの御臨席

当日イベント終了後に続いて行われた、HOPE ミーティングとの合同レセプションにおいて、高円宮妃殿下御臨席の栄誉を賜りました。妃殿下はノーベル賞受賞者の方々や、若手研究者とご歓談になりました。



HOPE ミーティングについて

HOPE ミーティングは、アジア・太平洋・アフリカ地域等から選抜された優秀な大学院生等を対象として、ノーベル賞受賞者などの世界の知のフロンティアを開拓した人々との対話、同世代の研究者との交流、さらには人文社会分野の講演や芸術プログラムを通じて、科学者としてより広い教養の涵養と人間性の陶冶を図り、彼らが将来の アジア・太平洋・アフリカ地域等の科学研究を担う研究者として飛躍する機会を提供するものです。

会議名の「HOPE」という言葉には、「活躍が期待される若手研究者」と「将来のアジア・太平洋・アフリカ地域の科学技術コミュニティ形成への希望」という2つの意味が込められています。

パネリスト



ヨハン・ダイゼンホーファー

1988年ノーベル化学賞
テキサス大学サウスウェスタン医学センター
生物物理学部 栄誉教授

マックス・プランク生化学研究所及びテキサス大学サウスウェスタン医学センターにて構造生物学の研究に従事。光合成反応中心の三次元構造を解明した功績により1988年のノーベル化学賞を共同受賞。



マフムード・A・アブー・ゼイド

アラブ水会議 会長
前エジプト水・灌漑大臣

1975年水研究センター配水・灌漑システム研究所所長。1979年エジプト水資源灌漑省・国立水研究センター長。1991年国際水資源学会会長。1994年世界水会議会長。1997年エジプト水・灌漑大臣。現在、国際かんがい排水委員会名誉副会長、アラブ水会議会長、国連水と衛生に関する諮問委員会メンバー、世界水会議終身名誉会長。



ティム・ハント

2001年ノーベル生理学・医学賞
沖縄科学技術大学院大学 客員研究員

2010年の退職まで、英国キャンサーリサーチのクリアホール研究所における主要な研究者の一人として活躍。1982年に「細胞周期の主要制御因子」の構成要素となるサイクリンを発見。この功績により、2001年にノーベル生理学・医学賞を共同受賞。



アキンウミ・A・アデシナ

アフリカ開発銀行 総裁

ナイジェリア農業大臣を経て2015年からアフリカ開発銀行総裁。そのリーダーシップが高く評価され、世界的な賞を多数受賞。また開発経済学者及び農業開発のエキスパートとして第一線で活躍。2017年世界食糧賞を受賞。



フィン・E・キドランド

2004年アルフレッド・ノーベル記念
経済学スウェーデン国立銀行賞
カリフォルニア大学サンタバーバラ校
ジェフリー・ヘンリー冠経済学教授

ノルウェー経済大学卒業後、カーネギーメロン大学より博士号取得。ノルウェー経済大学、カーネギーメロン大学、テキサス大学オースティン校で教鞭を執った後2004年よりカリフォルニア大学サンタバーバラ校教授。また同校の総合経済金融研究所所長を務める。ダラス連邦準備銀行リサーチアソシエイトを兼務。



安西 祐一郎

独立行政法人日本学術振興会 理事長
日本・スウェーデン外交関係樹立150周年
推進委員会 委員長

学術研究を支援する資金配分機関である独立行政法人日本学術振興会理事長。専門は認知科学、情報科学。学習と思考の認知過程、社会情報基盤等に関する先駆的研究者として知られる。日本・スウェーデン外交関係樹立150周年推進委員会委員長として、両国関係の深化にも寄与。



アダ・ヨナット

2009年ノーベル化学賞
ワイツマン科学研究所 教授

専門はタンパク質の生合成、そしてこの課程を妨げる抗生物質、さらには生命の起源。1970年代に、イスラエル初の構造生物学研究所を設立。同時に、1986年から2004年の間にはハンブルク（ドイツ）のマックス・プランクリボソーム構造研究ユニットを指揮した。



ハワース・E・ビュース

国際食糧政策研究所
ハーベストプラス創始者

ハーベストプラスのディレクター（2003 - 2016）として、微量栄養素に富む主要農作物の開発、試験、普及のための多機関連携国際プログラムのコーディネーター役を務め、途上国におけるミネラル・ビタミン欠乏症患者の減少を目指す。また経済学者として食料需要と栄養状態をテーマとした研究に従事。



大隅 良典

2016年ノーベル生理学・医学賞
東京工業大学科学技術創成研究院
細胞制御工学研究センター 特任教授（栄誉教授）

東京大学で理学博士の学位を取得後、米国に渡りロックフェラー大学で博士研究員を務めた。帰国後は東京大学、岡崎大学、東京工業大学にて分子細胞生物学の研究を続けオートファジーの仕組みを解明し、京都賞の基礎科学部門、ノーベル生理学・医学賞、そしてブレイクスルー賞等を受賞している。



ケント・J・ブラッドフォード

カリフォルニア大学デービス校 特別教授
ワールドフードセンター ディレクター

1982年からカリフォルニア大学デービス校の教授を務める。種子生物学と作物改良を専門としており、現在は同校ワールドフードセンター及び種子生物学センターのディレクターを務める。



スザンヌ・デヴコタ

シダースサイナイメディカルセンター
医学部 助教
マイクロバイオーーム研究長

シカゴ大学で博士号取得後、ブランコ・ワイズ奨学制度の支援を受けハーバード大学医学大学院で博士研究員として研鑽を積む。現在は健康と病気における腸内微生物の栄養の役割に焦点をあてた研究に従事。



長谷川 眞理子

総合研究大学院大学 学長

1983年東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。1992年イェール大学人類学部客員准教授、2000年早稲田大学政治経済学部教授、2006年総合研究大学院大学葉山高等研究センター教授、2014年同大学副学長、2017年より現職。



クロード・フィッシュラー

フランス国立科学研究センター
名誉上席研究員

パリのフランス国立科学研究センター(CNRS)、名誉上席研究員、社会科学高等研究院(EHESS)現代人類学研究所・前所長。社会学者および人類学者の視点から、食習慣について、ならびに社会的相互作用と文化的規範が食行動と栄養を形成する過程およびその影響について、学際的、文化横断的研究を行う。



伊丹 健一郎

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 拠点長

1998年京都大学で博士(工学)を取得後、同大学助手、2005年名古屋大学准教授、2008年名古屋大学教授、2012年名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長。



藤垣裕子

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授

1990年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士(学術)取得。同年4月東京大学教養学部基礎科学科第二助手。1996年10月科学技術庁科学技術政策研究所主任研究官。2000年4月東京大学大学院総合文化研究科助教授、2010年1月同教授。専門は科学技術社会論。



岩永 勝

国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 理事長

京都大学農学研究科修士卒業後に米国ウィスコンシン州立大学博士号取得(植物遺伝学)。世界各地にある国際農業研究機関で30年近く活躍し、国際トウモロコシ・コムギ改良センター所長など要職を歴任。世界食糧賞・特別顕彰、食の新潟国際賞等を受賞。



マリオン・ギュー

フランス農学・獣医学・林学研究院
アグリニウム取締役会 会長

フランス国立農業研究所(INRA)にてCEO(2000-2004)、CEO 兼会長(2004-2012)を歴任し、農業、食料、環境分野の横断的研究プログラムに注力。現在はフランス農学・獣医学・林学研究院アグリニウム取締役会会長を務めるとともに、国内外の委員会及びフランス技術アカデミーのメンバーとして活躍。



家戸 敬太郎

近畿大学水産研究所 教授

1967年大阪府東大阪市に生まれる。1992年に近畿大学大学院農学研究科修士課程を修了後、1993年から近畿大学水産研究所助手、2002年から同講師、2006年から同助教授を経て2014年から同教授となり現在に至る。同研究所白浜実験場長および富山実験場長を兼務している。



原山 優子

前内閣府総合科学技術・イノベーション会議 議員

ジュネーブ大学経済学部助教授(1998-01)、経済産業研究所研究員(2001-02)を経て、東北大学大学院工学研究科教授(2002-13)、総合科学技術会議非常勤議員(2006-07)、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局次長(2010-12)を経て、総合科学技術・イノベーション会議非常勤議員(2013-18)。教育学博士、経済学博士(ジュネーブ大学)。



加藤 百合子

株式会社エムスクエア・ラボ 代表取締役

1998年東京大学農学部卒、英国で修士号取得後NASAのプロジェクトに参画。帰国後は、精密機械の研究開発に従事するも、子育てから農業の大切さに気づき2009年エムスクエア・ラボを設立。2012年青果流通革新で日本政策投資銀行第1回女性新ビジネスプランコンペ大賞受賞。



向井 千秋

宇宙飛行士 / 東京理科大学 特任副学長

1977年慶應義塾大学医学部卒業。同年、医師免許取得。1988年同大学博士号取得。同大学病院にて心臓外科医として診察に従事。1985年、NASDA（現 JAXA）より搭乗科学技術者として選定され、アジア初の女性宇宙飛行士として1994年、98年と2度の宇宙飛行を行う。2015年4月、東京理科大学副学長に就任。



アダム・スミス

ノーベル・メディア AB
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー

オックスフォード大学、ハーバード大学、ハイデルベルク大学での研究員を経て、オックスフォード大学で発生神経科学の研究に従事。その後エルゼビア及びネイチャー・パブリッシング・グループの主任編集者及び出版者として科学出版に携わる。2006年より NobelMedia の前身である Nobelprize.org に勤務。



ヴァージニア・マレー

イングランド公衆衛生庁 グローバル防災担当公衆衛生コンサルタント
災害リスク統合研究 (IRDR) 科学委員会メンバー

公衆衛生医の立場から長年にわたり緊急事態・災害対応策に取り組む。また、災害リスク低減に向け、仙台防災枠組 2015-2030 の交渉を科学面からサポートしている。



辻 芳樹

学校法人辻料理学館辻調理師専門学校
理事長・校長 / 辻調グループ代表

英国・米国で教育を受け、1993年より現職。2000年に主要国首脳会議（九州・沖縄サミット）にて首脳晩餐会料理監修。2014年にはユネスコ世界無形文化遺産登録検討委員に就任。ヨーロッパやアメリカを中心に食の最前線を調査研究し、その成果を次世代のプロの料理人育成に生かしている。



マリオン・ネスル

ニューヨーク大学 名誉教授

カリフォルニア大学バークレー校より博士号（分子生物学）と公衆衛生修士号（公衆栄養学）取得。ブランダイス大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校で教鞭を執った後1988年にニューヨーク大学に移り、食糧政策と政治学の分野で教育および執筆活動を行う。



スタンレー・ウリジャチェク

オックスフォード大学社会文化人類学研究所
生物文化多様性・肥満ユニット ディレクター

生化学と栄養学の学位取得後ケンブリッジ大学勤務。現在はオックスフォード大学にて、栄養と肥満に関する政治生態学研究をグローバル規模で行うとともに、進化栄養学と進化医学の研究に従事。



沖 大幹

国際連合大学 上級副学長
東京大学生産技術研究所 教授

国際連合事務次長補、東京大学総長特別参与を兼務。地球規模の水循環、気候変動の影響評価と適応策、仮想水貿易とウォーターフットプリント、世界の水資源の持続可能性を研究。生態学琵琶湖賞、日経地球環境技術賞、日本学士院学術奨励賞など表彰多数。



焼家 直絵

国際連合世界食糧計画 (WFP)
日本事務所 代表

国連世界食糧計画 (WFP) 日本事務所代表。国連 WFP 職員として16年以上のキャリアを持ち、ミャンマー国事務所副代表、シエラレオネ国事務所副代表及び支援事業責任者（エボラ危機時の複雑な緊急支援活動を率いる）など、多様なポストを歴任。オーストラリア国立大学国際関係修士。



サイモン・ピアソン

リンカーン大学アグリフードテクノロジー
教授

1992年レディング大学より博士号取得。リンカーン大学アグリフードテクノロジー教授。ロボットシステム、オートメーション、エネルギー制御・管理、食品安全システム、新規作物の開発など、アグリテクノロジーの様々な応用について研究。



吉池 信男

青森県立保健大学大学院健康科学研究科
研究科長

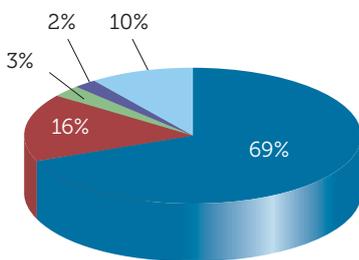
1987年東京医科歯科大学医学部卒業。1991年国立健康・栄養研究所研究員。2001年、同研究所健康栄養調査研究部長、研究企画評価主幹。2008年青森県立保健大学栄養学科教授。2012年より同大学院健康科学研究科長。

参加者データ

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 には世界各国から 1,105 名が参加しました。また、会場での参加者だけでなく、多くの方がインターネット上のライブ・ストリーミングやソーシャル・メディアを通じてこのイベントに参加しました。ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 における全ての講演、パネルディスカッションは以下の URL からご覧いただけます。 <https://www.youtube.com/nobeldialogue>

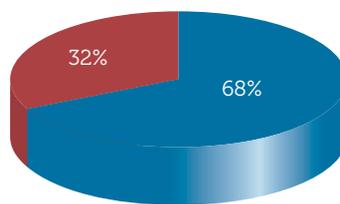
会場の参加者のうち、68% は日本から、32% は国外からの参加者であり、国際的なイベントとなりました。また、一般参加者のうち、学生、あるいは大学・研究機関教職員の割合は約 50% で、分科会における質疑応答などにおいては、積極的な対話への参加がみられました。

参加者総数：1,105 名



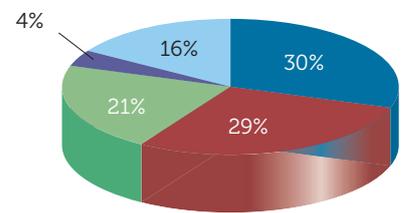
一般参加者	764名
招待者	176名
登壇者	33名
報道機関	26名
HOPE ミーティング	106名

国内外別参加者数



国内	753名
国外	352名

一般参加者属性



会社員・会社役員	226名
学生	221名
大学・研究機関教職員	164名
公務員	28名
その他	125名

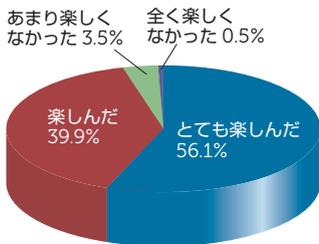
※HOPE ミーティングは、日本学術振興会が主催し、アジア・太平洋・アフリカ地域等から選ばれた優秀な若手研究者約 100 名を対象に、ノーベル賞受賞者等との交流等を通じた人材育成を推進するものです。

国・地域別参加者人数

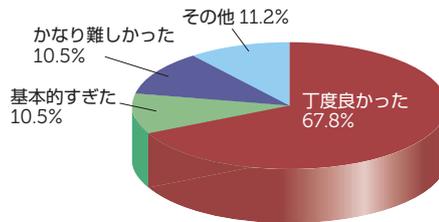
国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数
イスラエル	6	カナダ	1	タイ	6	フィリピン	8	南アフリカ	4
イタリア	1	カメルーン	1	台湾	9	ブラジル	1	ミャンマー	2
イラン	3	韓国	8	中国	29	フランス	1	メキシコ	1
インド	21	ケニア	4	ドイツ	5	米国	7	モロッコ	1
インドネシア	71	シンガポール	7	トルコ	1	ベネズエラ	1	モンゴル	4
ウクライナ	2	ジンバブエ	1	NZ	5	ベルギー	1	ヨルダン	1
英国	1	スウェーデン	4	ネパール	5	ポーランド	2	ルーマニア	1
エジプト	5	スペイン	4	パキスタン	1	ボリビア	1	ロシア	3
オーストラリア	8	スリランカ	4	ハンガリー	1	ポルトガル	1	国外招待者	82
オランダ	1	スワジランド	1	バングラデシュ	6	マレーシア	8	日本	753

アンケート結果

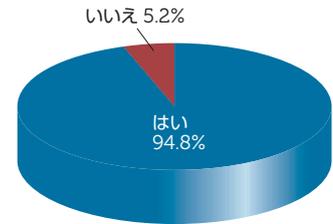
ノーベル・プライズ・ダイアログ東京
2018 をお楽しみいただけましたか？



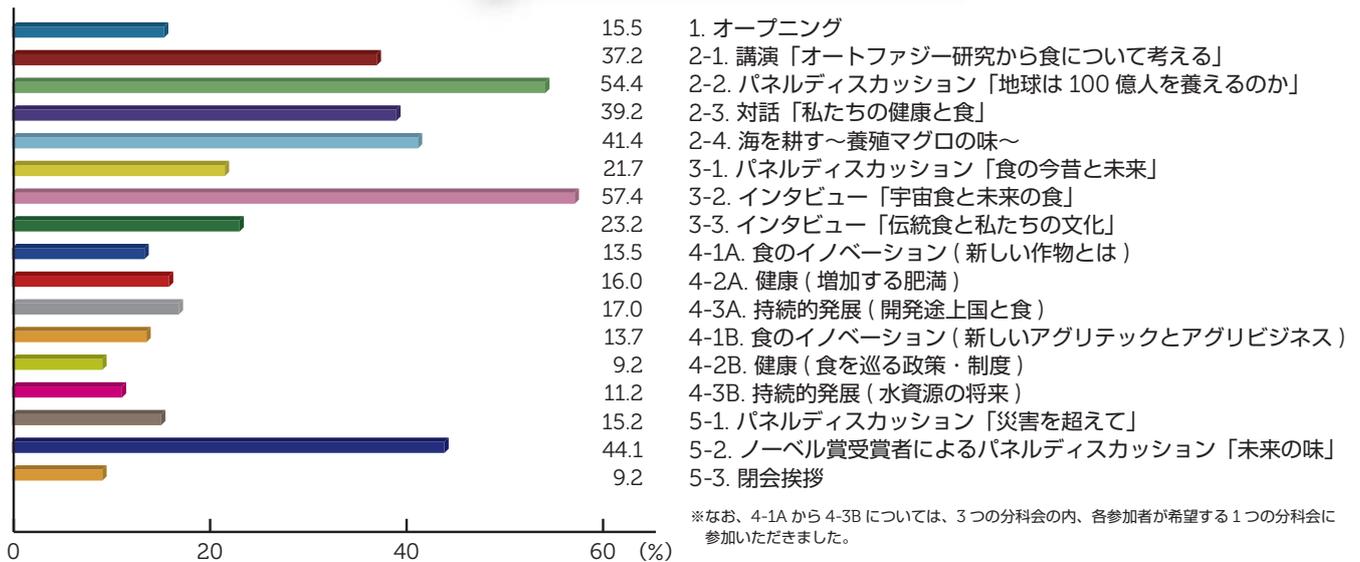
全体的な内容はいかがでしたか？



またノーベル・プライズ・ダイア
ログに参加したいですか？



面白かったプログラムは何ですか？



プログラムに関してご意見がございましたらお聞かせください。

- ・短いプログラムが盛りだくさんだったので、テーマを多様な切り口で考えるきっかけになりました。あえて言うなら、分科会はもう少し時間が欲しかった（くらい面白かった）。
- ・オーディエンスへの質問時間をもっと欲しい。また、来場者同士が交流できる場があればより充実した時間になると思います。
- ・食についてこれだけ各方面の先生方からご意見が聞け、食品製造に携わっている人間として、今後の企業活動の方向性を見いだす助けとなった。ありがとうございました。

主催者

独立行政法人日本学術振興会



本会は、独立行政法人日本学術振興会法（平成 14 年 12 月 13 日法律第 159 号）に基づき、学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、その他学術の振興に関する事業を行うため、平成 15 年 10 月 1 日に設置された文部科学省所轄の独立行政法人です。

本会の前身は、天皇陛下から学術奨励のため文部大臣に下賜された 150 万円により、昭和 7 年 12 月に創設された財団法人日本学術振興会であり、その後、昭和 42 年 9 月に日本学術振興会法に基づき、特殊法人となりました。70 年余にわたり我が国の学術振興を担う中核機関として様々な事業を展開してきましたが、平成 15 年 10 月、業務の弾力化・効率化を図り、研究者や学術研究機関へのサービスの一層の向上をめざして、独立行政法人として新たにスタートいたしました。

日本学術振興会は、我が国の学術振興の中核を担う機関として、科学研究費助成事業などの学術研究への助成や、特別研究員事業などの若手研究者養成を、研究者の自主性と研究の多様性を尊重しながら実施しています。また、世界に張り巡らされた学術関係機関ネットワークの主要な一員として、学術に関する国際交流の促進を積極的に行っています。

さらに近年は、大学改革を支援する事業も実施しており、学術研究の振興と人材育成のための活動を幅広く行う機関として発展を続けています。

日本学術振興会ウェブサイト www.jsps.go.jp

ノーベル・メディア AB



ノーベル・メディアは、ノーベル賞を受賞した業績についての知識を社会へ広め、アルフレッド・ノーベルのビジョンや遺産に沿って科学や文学、平和に対する関心を高める活動を行っています。同社は、ノーベル賞の公式デジタルチャンネル、ノーベルプライズコンサート、さらには世界中で開催される、ノーベル賞受賞者出演の示唆に富んだ講演イベントなど、高品質な企画を提供しています。さらには、ノーベル賞授賞式に関する著作権のポートフォリオや映像の販売、生放送の配信権の管理も行っています。

www.nobelprize.org

Twitter: @NobelPrize

Facebook: www.facebook.com/nobelprize

YouTube: www.youtube.com/nobelprize

ノーベル・メディア® (Nobel Media®)、ノーベル賞® (Nobel Prize®) 及び Nobelprize.org® はノーベル財団の登録商標です。免責事項: ノーベル・メディアはノーベル賞受賞者の選考に直接的又は間接的に関与しません。選考手続はノーベル賞選考委員会によって、厳重かつ機密に取り扱われます。

ノーベル財団

アルフレッド・ノーベルの遺言により、1900 年に創設された私設財団です。主な活動は、ノーベルの遺産と長年培われてきたノーベル賞に関連する知的財産の管理です。

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 運営委員会

委員長

安西 祐一郎 独立行政法人日本学術振興会理事長
日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年推進委員会委員長

委員

岩永 勝 国立研究開発法人国際農林水産業研究センター理事長

生源寺 眞一 国立大学法人福島大学農学系教育研究組織設置準備室長

武見 ゆかり 学校法人香川栄養学園女子栄養大学大学院研究科長

永井 良三 学校法人自治医科大学自治医科大学長

福田 裕穂 国立大学法人東京大学理事・副学長・大学院理学系研究科教授

※所属機関及び職名はノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 開催日時点のものです。



パートナー企業等

ノーベル・インターナショナル・パートナー



3M社はノーベル・メディアとともに、科学教育の将来性と持続可能性などの地球規模の重要な問題に何年も光を当ててきました。このパートナーシップは、世界中の人々の生活に影響を及ぼす重大な問題について、皆様とともに学び、考え、意識することのできる機会を私たちに与えるものです。



スカニア社は研究と発展に強く焦点を当て、効率的で高機能な輸送策とその革新を先導しています。スカニア社がその広範にわたる対応力を維持し、自動車産業の先端の地位を保っていくために、3,500名以上の研究者が代替燃料や接続性、自動化、電化といった未来の鍵となる分野の最前線で働いています。

特別スポンサー



日本ロッテグループは、1948年に創業して以来、食と健康にかかわる新たな価値を積極的に提供してまいりました。今後も食によって人々が心身ともに健康であり続けられる社会の実現に向けて、品質の安全・安心を守ること、自然環境や地域社会と共生すること、そして、お客様をはじめとする多様なステークホルダーと適切に関わることを大切に、事業活動を目指してまいります。

スポンサー



大正製薬は、創業以来100年以上にわたり「生活者の健康でより豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを使命とし、病気の予防から治療までの幅広い製品ラインアップで、皆さまの様々なニーズにお応えしております。

これからも、日本におけるOTC医薬品のリーディングカンパニーとして、市場の活性化と拡大を図るとともに、医薬事業においては当社の強みを活かした領域における展開を強化し、自社オリジナル製品の上市に向けて取り組んでまいります。

後援：文部科学省、外務省、農林水産省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、横浜市、スウェーデン大使館

協力：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

寄附：日清食品ホールディングス株式会社、中外製薬株式会社、カルビー株式会社、一般財団法人キヤノン財団



エリクソン社は世界をリードするコミュニケーションテクノロジーとサービスを提供する企業です。当社は世界中の持続的な社会において、より自由に学び、働き、生活することのできる効率的でリアルタイムなソリューションを有したネットワーク社会を実現しています。現在、エリクソンネットワークは、世界の通信網のうちの40%以上を占め、25億人以上の方が当社のネットワークカスタマーサポートを受けています。



ボルボ社は有数の自動車メーカーであり、自動安全運転技術の分野において新しいテクノロジーを革新的に発展させています。当社の研究開発に取り組んでいる6,000人の研究者が、3つの大陸にまたがって広く活躍しています。西スウェーデンにおいて自動運転の分野を強化するとともに、自動運転車向けソフトウェア開発の拠点を設立しています。



ヤクルトは創業以来、「一人でも多くの人に健康を届けたい」という情熱を原動力に、目に見えない小さな生き物が秘める大きな可能性を追究してきました。そして、その成果を基に、乳酸菌飲料「ヤクルト」を始めとした多彩な食品、化粧品や医薬品事業を展開。今では「健康で楽しい生活づくり」につながる商品を、世界中の皆さまにご利用いただいています。



主催者広報活動実績

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 広報件数

プレスリリース 4 件、JSPS ウェブサイト 5 件、JSPS メールマガジン 9 件、JSPS 季刊誌 2 件、SNS(Facebook)4 件、新聞雑誌等広告 4 件

プレスリリース

- 第1回 2017年 12月 7日 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018」
- 第2回 2018年 1月 24日 参加登録受付開始
- 第3回 2018年 2月 19日 取材登録について
- 第4回 2018年 3月 2日 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018」及び HOPE ミーティング」合同レセプションについて高円宮妃殿下レセプション御臨席

JSPS MONTHLY



◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 広告協賛・寄附のお願い

- 2017年 8月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2017年 9月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2017年 10月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2017年 11月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2017年 12月号 JSPS Monthly (学振便り) に掲載

◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 開催告知

- 2018年 1月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2018年 2月号 JSPS Monthly (学振便り)、
- 2018年 3月号 JSPS Monthly (学振便り) に掲載

◇ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 開催報告

- 2018年 4月号 JSPS Monthly (学振便り) に掲載

JSPS Facebook

- 2017年 12月 7日 開催告知
- 2018年 1月 24日 登録開始
- 2018年 3月 11日 開催報告 (和文)
- 2018年 3月 11日 開催報告 (英文)



JSPS ウェブサイト (学振トピックス)

学振トピックス

- 2017年 7月 31日 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 広告協賛・寄附のお願い
- 2017年 12月 7日 「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018」
- 2018年 1月 24日 参加登録受付開始
- 2018年 2月 19日 参加登録受付終了
- 2018年 3月 30日 開催報告

JSPS QUARTERLY

No.62 2017 Winter
Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018 Scheduled for March



No.64 2018 Summer
Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018



新聞雑誌等広告

日本経済新聞 朝刊 (2017年12月12日)

ニッポンの知の結集 世界へ羽ばたけ
 日本経済新聞 朝刊 2017年12月12日
 記者 安西祐一郎

知のサポート 地道に長く

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018
 Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018
 2018年3月11日(日)

主催: ノーベル財団、日本学術振興会
 協賛: 3M, ERICSSON, SCANIA, LOTTE, YAMATO, 大正製薬, Kanonoh, 日研工業, SUNTORY, 日本化学工業, 東京海上日動火災保険

日経サイエンス (2018年2月号)

ニッポンの知の結集 世界へ羽ばたけ
 日経サイエンス 2018年2月号
 記者 安西祐一郎

知のサポート 地道に長く

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018
 Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018
 2018年3月11日(日)

主催: ノーベル財団、日本学術振興会
 協賛: 3M, ERICSSON, SCANIA, LOTTE, YAMATO, 大正製薬, Kanonoh, 日研工業, SUNTORY, 日本化学工業, 東京海上日動火災保険

神奈川新聞 (2018年1月25日)

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018」The Future of Food 持続可能な食の未来へ
 日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念事業・ノーベル賞受賞者が市民と対話する公開シンポジウム

「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018」The Future of Food 持続可能な食の未来へ

開催日時: 2018年3月11日(日) 10:00-17:00(予定)
 会場: パシフィコ横浜 会議センター
 参加費: 無料

協賛: 3M, ERICSSON, SCANIA, LOTTE, YAMATO, 大正製薬, Kanonoh, 日研工業, SUNTORY, 日本化学工業, 東京海上日動火災保険

タウンニュース (2018年1月25日)

参加無料 ノーベル賞受賞者と語る
 参加登録はウェブで

記念事業の一環として、当日世界各国からノーベル賞受賞者を含む著名な研究者や識者が参加し「The Future of Food」持続可能な食の未来へをテーマに、語り合う。登壇予定者は大隅良典氏、ノーベル生化学者、医学賞「写真」ティム・ハント氏、同「アダム・ヨナット氏(化学賞)ほか。参加は無料。参加希望者は特設ウェブサイト <http://www.nobelprizedialogue.org/okyo2018/jp/> から申し込みます。

横浜コンベンション・ビューローウェブサイト

横浜観光情報
 YOKOHAMA VISITORS' GUIDE

イベント 観光スポット オススメコース 遊び・体験プラン レストランガイド マップ検索 季節の特集

パンフィコ横浜 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018

「ノーベル・プライズ・ダイアログ」は、世界各国からノーベル賞受賞者を含む著名な研究者や識者が一堂に会し、社会にとって重要な課題を語り合う、参加費無料の公開シンポジウムです。広く一般の方に、科学技術・学術への理解を深めてもらうことを目的として行われ、日本での開催は3回目となります。今回は、「The Future of Food 持続可能な食の未来へ」をテーマに、食糧、健康、文化、水、貧困といった多岐にわたるグローバルな課題について、語り合います。

日時: 2018年3月11日(日) 10:00-17:00(予定)
 場所: パシフィコ横浜 会議センター
 参加費: 無料

協賛: 3M, ERICSSON, SCANIA, LOTTE, YAMATO, 大正製薬, Kanonoh, 日研工業, SUNTORY, 日本化学工業, 東京海上日動火災保険

開催日時: 2018/3/11(日)
 会場: パシフィコ横浜
 エリア: みなとみらい11エリア
 URL: <http://www.nobelprizedialogue.org/okyo2018/jp/>
 ※詳細は主催者のホームページなどでご確認ください。

在日本スウェーデン大使館
 日瑞外交関係樹立150周年特設サイト

Nobel Prize Dialogue Tokyo 2018
 The Future of Food

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018

「ノーベル・プライズ・ダイアログ」は、世界各国からノーベル賞受賞者を含む著名な研究者や識者が一堂に会し、社会にとって重要な課題を語り合う、参加費無料の公開シンポジウムです。広く一般の方に、科学技術・学術への理解を深めてもらうことを目的として行われ、日本での開催は3回目となります。今回は、「The Future of Food 持続可能な食の未来へ」をテーマに、食糧、健康、文化、水、貧困といった多岐にわたるグローバルな課題について、語り合います。

開催日時: 2018/3/11 10:00-17:00 (日)
 会場: パシフィコ横浜 会議センター

制作物

ポスター (A2) (日・英)



チラシ (A4) (日・英)



特設サイト (日・英)



JSPS ウェブサイト (日・英)



当日配布プログラム (A5) 日英併記 全 16 頁



ノーベル・ウィーク・ダイアログと日本開催の経緯

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京は、ノーベル財団の広報を担うノーベル・メディア AB がスウェーデンにおいて 2012 年から毎年ノーベル賞授賞式の前日に開催している一般向けの公開シンポジウムである「Nobel Week Dialogue (ノーベル・ウィーク・ダイアログ)」について、ノーベル側から日本での開催の可能性について打診があり、その後同財団や関係機関等との協議の結果、2015 年にスウェーデン国外では初めて日本において、日本学術振興会及びノーベル・メディアの共催により実施されました。



2012 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： The Genetic Revolution and its Impact on Society 「生命科学が拓く未来と社会的インパクト」

第一回目のノーベル・ウィーク・ダイアログでは、35 名のパネリストと 1,100 名の参加者がスウェーデンのストックホルムに集いました。遺伝学やゲノム科学における過去半世紀にわたる進歩を振り返り、今日の社会との関連を考えるとともに、将来の動向に目を向けました。



2013 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： Exploring the Future of Energy 「エネルギーの未来を切り拓く」

初めてヨーテボリにおいて開催されたノーベル・ウィーク・ダイアログ 2013 では、エネルギーをテーマに、科学と社会の間に横たわる従来の境界線を越えた議論が行われました。



2014 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： The Age to Come 「来たる高齢化」

第 3 回目のノーベル・ウィーク・ダイアログはストックホルムで開催され、科学的・文化的側面から老化について論じられました。平均寿命を延ばすことが人類最大の目標の 1 つであることに疑いの余地はありませんが、一方で世界的な高齢化が着実に進むことにより、新たな挑戦と機会の幅が広がります。



2015 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： The Future of Intelligence 「知の未来」

知の未来は 2015 年にヨーテボリで行われたノーベル・ウィーク・ダイアログのテーマです。登壇者は「知とは何か」という問いについて、その多様性と複雑性、そして技術開発の急激な進展に焦点を当て、議論しました。



2016 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： Your Plate - Our Planet : The Future of Food 「あなたの食卓、私たちの惑星：食の未来」

第 5 回目のノーベル・ウィーク・ダイアログはストックホルムで開催され、参加者と登壇者は国際的持続可能性、貧困、栄養不良、食料廃棄といった問題を含め、食に関する議論を繰り広げました。



2017 年ノーベル・ウィーク・ダイアログ： The Future of Truth 「真実の未来」

真実の未来はヨーテボリで行われた第 6 回ノーベル・ウィーク・ダイアログのテーマです。参加者と登壇者は、メディアへの信頼やテロの原因、また科学的手法の価値といった多岐にわたるトピックについて熱い議論を交わしました。

※上記の日本語タイトル、概要は、本会で翻訳したものです。

商標について

本誌上に掲載している名称、表題、トレードマーク、サービスマークおよびロゴは、ノーベル財団の登録商標または未登録商標です。これには、ノーベル賞® (Nobel Prize®)、ノーベルメダル® 意匠 (the Nobel Medal® designmark)、Nobelprize.org®、ノーベル・メディア® (Nobel Media®)、ノーベル博物館® (Nobel Museum®)、ノーベル博物館® (Nobel museet®)、ノーベル・ウィーク® (Nobel Week®)、ノーベル・ウィーク・ダイアログ (Nobel Week Dialogue) およびノーベル・プライズ・ダイアログ (Nobel Prize Dialogue) (合わせて以下「ノーベル財団商標」という) が含まれますが、これらに限定されません。ノーベル財団は、これらの商標の使用許可を最も厳しく制限しています。利用者は、ノーベル財団からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、ノーベル財団商標を使用することはできません。また、本誌上には、第三者の商標を掲載することもあります。利用者は、それらの商標の所有者からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、当該商標を使用することはできません。

本誌上のいかなる記載も、ノーベル財団商標を使用する権利または許可を明示的または黙示的に付与するものではなく、また本誌上のいかなる記載も、独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) が第三者商標の所有者に代わって権利または許可を付与する権限を有すると解釈できるものではないことを、利用者は認識し、承認したものとします。なお、JSPS は、商標を使用する権利が有効なものであるかどうかを確認する責任も、利用者のために当該権利を保証する責任も負わないものとします。そのため、JSPS は、本誌上に掲載された情報を除き、住所、電話番号及びその他の連絡先を、商標使用の権利を有する第三者には提供しません。

著作権について

本誌上に掲載された写真、画像、図表、デザインおよび文書等の全部または一部 (以下「本コンテンツ」という) はすべて、ノーベル・メディア AB または JSPS の所有物、または法令もしくは第三者の同意に基づいて使用しているものです。

利用者は、JSPS からの使用許可をあらかじめ書面で取得しない限り、本コンテンツの複製、頒布、表示、送信、改変、翻案、もしくは本コンテンツの派生著作物を作成すること、またはその他の方法で使用することはできません。